



「就職させて」

渋谷で高校生ら100人

雇用情勢が悪化するなか、首都圏と関西から集まった高校生ら約100人が25日、東京都渋谷区のJR渋谷駅前などを歩き、「就職難を解決して」「お金がないと学校に行けない」と、就職難の解消や就学の保障などを訴えた一写真、細川卓撮影。就職希望だった大阪府の私立高校3年の女子生徒(18)は「求人がなく入社試験も受けられなかった。早く何とかして欲しい」と話した。

文部科学省の調査では、来春卒業予定で就職を希望している高校生の内定率(10月末現在)は55.2%にとどまっている。

「就職に来て」

経産省HPに中小1437社

直嶋正行経済産業相は25日、大学や高校を来春卒業する学生・生徒の採用を検討している中小企業1437社を公表した。学生・生徒の就職内定率が低下しているなかで、知名度の低さから採用が進まない中小企業を知ってもらい、雇用の確保につなげる狙いだ。サービス分野をはじめ、機械や金属などの製造業や、農林漁業関連の企業を紹介している。企業の一覧は、経産省のホームページ(<http://www.meti.go.jp/>)に。

毎日新聞

(第3種郵便物認可)

家に負担/参考書買えない……

高校生4人に3人

学ぶお金「心配」

高校生の4人に3人 様子が浮かんだ。が、学業を続ける上で 調査は、生徒たちが何らかの金銭的な困難を感じていることが、埼玉県の時制制高校生が呼びかけたアンケート調査で分かった。4人に1人は「学費で家族に迷惑をかけて申し訳ない」と回答しており、経済環境の悪化が学ぶ場を直撃している

埼玉の時制制生徒が 呼び掛け1500人調査

徒。経済的な理由で退学する仲間が目立ち始めたことがきっかけでアンケートを思いついたという。金銭にかかわる16項目を調査。「学費が高く通い続けられるか不安」は8・7%、「通った埼玉県内の時制制学費の工面が困難」は7・4%、「参考書が買えない」が4・4%だった。24・7%が、学費で家族に迷惑をかけていると思っていた。定時制(夜間)、通信制では20%を超える生徒が授業料を自分でまかなっていた。「奨学金をもらいたい」が12%あったのに対し「もらっている」は3・9%と差が際立った。16の質問に一つも該当しないのは24%にとどまった。アンケートを呼び掛けた埼玉県内の時制制3年生の女子生徒(17)は、携帯の製造工場(90・1437・9824)で集会を開き、アンケート結果について話し合う。問い合わせは同県立小川高校定時制の鈴木敏則教諭(024)。

【東海林智】

時間、週6日働き、学費と生活費をまかなっている。女子生徒はお金がかかって申し訳ないと感じる人がいる。全日制も定時制も、安心して勉強できない環境に変えていきたい」と話している。生徒たちは26日午後1時から埼玉県三郷市の「三郷鷹野文化センター」で集会を開き、アンケート結果について話し合う。問い合わせは同県立小川高校定時制の鈴木敏則教諭(024)。